

市政に 対する 一般質問

9月定例会の一般質問は9月8日・9日・10日の3日間行われ、13人の議員が市政全般に対する諸問題について質問をしました。紙面の都合上、主なものを掲載しました。なお、詳細については、11月下旬発行予定の会議録(市役所市政情報コーナー、図書館及び地域公民館、市議会ホームページなどで閲覧可能)をご覧ください。

政治姿勢

市長の今後の 進退は

岩田 謙啓
(黎明21)

問

工藤市政が誕生して3年半が経過しているが、市民と約束したマニフェストは着々と実行に移され、本市の発展に向けた取り組みが積極的に推進されている。財政健全化の取り組みや南大通線の全線開通、観光をキーワードとした地域振興、本格的な少子高齢化を見据えた諸施策等、わずかな期間で数々の実績を積み上げ、市長としての力量は高く評価される。変革が多岐に渡る難しい行政運営の舵取りは工藤市長において他にない。そこで、来年4月の市長選挙へ出馬する考えはあるのか。

答 私は生まれ育った「ふるさと行田を元気にしたい」という一念をもって、平成19年の市長選に立候補し初当選した。就任以来「市民が主役のまちづくり」を基本として全力で課題に取り組んできた。

市民の幸せのため、明日の行田を切り拓いていく覚悟である。引き続き市政の舵取りを担わせていただきたい。

学校施設

南河原小グラウンド の計画的な 整備・改修を

栗原 二郎
(日本共産党)

問

一昨年の南河原小学校の秋の運動会は天候に恵まれず2度延期された。永年使い続けてきた校庭は、水はけが悪く、ぬかるむなど競技が行える状態になかった

と聞いている。学校グラウンドは面積が広く、整備に費用がかさむので、各校の状況を把握して、計画的に整備・改修を行うべきだが教育委員会の考えは。

答 南河原小学校のグラウンドは、水はけが悪く、全体的にぬかるみが目立つ状態である。教育委員会としては、計画的に整備改修に取り組んでいるところであり、最近では桜ヶ丘小学校、太田中学校、東小学校のグラウンドを整備した。整備に要する経費は、面積にもよるが約1千万円から1千600万円となっている。今後とも小中学校のグラウンド整備改修については、南河原小学校も含め、学校側との調整を行い、計画的に進めていきたい。

教育

望ましい 学習環境とは

野口 啓造
(黎明21)

問

児童数の減少に伴い平成26年度には複式学級が予想される須加小学校は、行田市公立学校再編成計画案において荒木小学校と統合されると示

されている。統合ありきの中で学校再編成協議会では何を話し合うというのか。

答 統合は計画案の中で示されたものであり、統合には地域のコンセンサスを得たいと考えている。学校関係者や地域関係者、公募の委員などで協議会を設置し須加小学校のあり方や諸課題について話し合いを進めていきたい。

問 須加小学校には野鳥が飛び交う森があり、様々な環境緑化コンクールで優秀校に選ばれている。こうした学習環境を生かすべきではないか。

答 地域の学校には長い歴史や文化があり保護者や卒業生の思いはある。しかし、子どもたちにとって豊かな人間関係が築ける児童数を確保し、より良い学習環境を提供することが必要と認識している。

まちづくり

旧行田女子高跡地 総合教育センター について

松本 安夫
(黎明21)

問

現在、旧行田女子高跡地に開所する県立総合教育センターの建設工事が急ピッチで進められている。この教育施設は教育センター本所及び深



教育センター予定地
(旧行田女子高)

谷支所並びにスポーツ研修センターの機能も移転されており、誘致により本市へ訪れる教育関係者は年間7万人を超えるといわれている。開所まで約半年となったが、本市のまちづくりにおける教育センターの位置づけはどのようなものか。当施設の周辺整備は行われるのか。

答 ご指摘のとおり、年間を通して、たくさんの方々が本市を訪れることから、この総合教育センターを市の活性化に向けた重要な拠点施設の一つと位置づけている。周辺の道路や歩道、側溝などの環境整備を進めるとともに、車輛の通行量増加などに対応した地域の交通安全対策、全県域からお越しになる教育関係者への観光PRなど、多角的に施策を展開したい。